

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|-------------------------|-----------|-------|------|---------------|----|------------------|
| 事業名 | 21800 | 環境政策推進事業費 | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | 総合計画 | 政策 | 3 | 「すみよさ」のあるまちをめざして |
| | 款 | 2 | 総務費 | | 分野 | 6 | 環境・衛生 |
| | 項 | 1 | 総務管理費 | | 基本施策 | 1 | 快適に暮らせる環境を整備する |
| | 目 | 18 | 環境政策費 | | 施策 | 2 | 地球環境への負荷の低減 |
| 根拠計画 | 高山市環境基本計画、高山市新エネルギービジョン | | | | | | |
| 実施計画事業 | 環境行政推進事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|-------------------|---|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| | どういった状態にしたいのか(意図) | ・地球環境の保護と市民の環境意識の向上及び具体的な行動、参画を図る。 | | |
| 概要 | 事業の実施手法(手段) | <ul style="list-style-type: none"> ・高山市環境審議会の運営を行う。 ・高山市快適環境づくり市民会議の運営を行う。 ・高山市新エネルギービジョンを推進する。 ・ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例の啓発を行う。 | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | |
|-------|-------------------------|--|---------|---------|---------|--------|
| 成果面 | H26の実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・高山市環境審議会の開催(審議会3回) ・高山市自然エネルギーによるまちづくり検討委員会の開催(検討委員会5回、地元部会7回) ・高山エネルギー大作戦の実施 ・高山市快適環境づくり市民会議の開催(グリーンマーケット、クリーン作戦等の実施) | | | | |
| | 指標名 | 単位 | 目標・実績 | H24 | H25 | H26 |
| 活動指標 | グリーンマーケット及びクリーン作戦等の開催 | 回 | 目標値 | 4 | 5 | 5 |
| | 算出根拠等 | | 実績値 | 4 | 4 | 5 |
| 活動指標 | ポイ捨て等及び路上喫煙禁止の啓発/ハローの実施 | 回 | 目標値 | 198 | 70 | 70 |
| | 算出根拠等 | | 実績値 | 197 | 17 | 19 |
| 活動指標 | 環境審議会(意見交換会含む)開催回数 | 回 | 目標値 | 10.0 | 10 | 5 |
| | 算出根拠等 | | 実績値 | 5 | 3 | 3 |
| 成果指標 | グリーンマーケット参加者 | 人 | 目標値 | 2,000 | 2,200 | 2,200 |
| | 算出根拠等 | | 実績値 | 2,000 | 1,300 | 700 |
| 成果指標 | クリーン作戦参加者 | 人 | 目標値 | 220 | 220 | 220 |
| | 算出根拠等 | | 実績値 | 120 | 120 | 100 |
| 成果指標 | 高山エネルギー大作戦フォーラムへの参加者数 | 人 | 目標値 | - | 400 | 400 |
| | 算出根拠等 | | 実績値 | - | 450 | 300 |
| 補足事項 | | | | | | |
| コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | |
| | 歳出(千円) | (A) | 3,666 | 10,847 | 7,918 | |
| | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | | | |
| | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | | | | |
| 一般財源 | | 3,666 | 10,847 | 7,918 | | |
| コスト指標 | 受益者1件当たり(円) | (A/B) | 39 | 118 | 86 | |
| | 受益者 | 全市民 | (B) | 92,861 | 92,097 | 91,605 |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|---|-------------------------------------|----|--|
| ① 市民ニーズの確認 | ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | A | ・地球温暖化対策、生物多様性保全、新エネルギーなどの環境問題は市民生活に密着した問題であり、市民、事業者の意識も高く、ニーズは増加している。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | ・市内の大規模事業者として、また市民や事業者をけん引する環境リーダーであり、市が主体となって実施することも重要であるが、快適環境づくり市民会議をはじめとした市民団体や事業者などとの連携により、各主体が協働して取り組むことで、より大きな効果が期待できる。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあげられている | B | ・市民、事業者の環境に関する意識向上を図るためのグリーンマーケット、クリーン作戦、高山エネルギー大作戦を開催し、多くの方の参加があった。 ・新エネルギーについては、市民や事業者からの問い合わせが増え、市民や事業者の新エネルギーへの意識が高まっている。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない | B | ・環境関連イベントへの参加者は多く、意識は向上している。 ・新エネルギーに関する取組みについては、市民・事業者等の参画が広まりつつあるが、さらに自主的に参画、行動できるような仕組みづくりが必要である。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | ・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があった | B | ・快適に暮らせる環境を整備するという基本施策の実現を図るうえで効果があった。 ・環境問題は、市民、事業者、行政の各主体が互いに知恵を出し合い、協力しながら地域で協働して取り組む必要があり、さらに機運を高める仕組みづくりが課題である。 |
| | | B (1) ある程度効果があった | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |
| 合計 | | 6 / 10 | → | 100点換算 60 点 |

| | |
|---------------------------------------|---|
| 分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入) | ・市民、事業者、市民活動団体等と行政が連携し、協働による省資源や環境保護、新エネルギーの導入などといった環境活動に取り組む必要がある。 |
|---------------------------------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| (参考) H26事業評価結果(二次評価) | <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の保護と市民の環境意識の向上を継続的に図る。 ・自然エネルギー利用日本一の環境都市に向け、新エネルギーの導入と省エネルギーの推進を図る。 ・市民との協働により環境に関する取り組みが進むよう、市民活動団体等との連携や市民参加による事業推進に取り組む。 |
|----------------------|---|

4 今後の方向性(Action)

| | |
|------------------|---|
| 課題等に対する27年度の対応状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・高山市環境審議会、意見交換会を開催し、環境に関する施策について意見をいただく。 ・高山市自然エネルギーによるまちづくり検討委員会を開催し、自然エネルギー導入における「飛騨高山モデル」の仕組みづくりに取り組む。 ・高山エネルギー大作戦の開催や市民主体の自然エネルギーに関する協議会に参画、連携し、市民及び事業者の意識啓発を図る。 ・快適環境づくり市民会議によるグリーンマーケット、クリーン作戦を会員と連携し開催する。 ・観光客等へポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例の周知啓発に努める。 ・市民との協働により環境に関する取り組みが進むよう、市民活動団体等との連携や市民参加による事業推進に取り組む。 |
|------------------|---|

| | | | | | | | |
|-----------------|---|---|----|----|-------|-------|---------|
| 次年度の実施方針(担当課評価) | 維持・改善 | ○ | 拡大 | 縮小 | 廃止の検討 | H26完了 | H27完了予定 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の保護と市民の環境意識の向上を継続的に図る。 ・自然エネルギー利用日本一の環境都市に向け、新エネルギーの導入と省エネルギーの推進を図る。 ・市民との協働により環境に関する取り組みが進むよう、市民活動団体等との連携や市民参加による事業推進に取り組む。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------|------------|---|----|----|-------|-------|---------|
| 二次評価(企画課・総務課・財政課評価) | 維持・改善 | ○ | 拡大 | 縮小 | 廃止の検討 | H26完了 | H27完了予定 |
| | (担当課評価に同じ) | | | | | | |

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|------------|------------------|-------|------|---------------|----|------------------------|
| 事業名 | 21805 | 森づくり交流推進事業 | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | 総合計画 | 政策 | 4 | 「にぎわい」のあるまちをめざして |
| | 款 | 2 | 総務費 | | 分野 | 3 | 林業 |
| | 項 | 1 | 総務管理費 | | 基本施策 | 1 | 林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持する |
| | 目 | 18 | 環境政策費 | | 施策 | 4 | 森林の保全 |
| | 根拠計画 | 高山市地球温暖化対策地域推進計画 | | | | | |
| 実施計画事業 | 森づくり交流推進事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|-------------------|---|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| 目的 | どういった状態にしたいのか(意図) | ・都市部の自治体や企業等との交流を通じて森林保全を行うとともに、都市部での地元産材の利用拡大や二酸化炭素削減につなげる。 | | |
| 概要 | 事業の実施手法(手段) | ・都市部の自治体、企業等とのカーボンオフセット事業を推進するとともに、エコツアーなどを実施し、交流・連携を図る。 ・間伐材を始めとした地元産材の活用を促進するため、「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」の活用や都市部の自治体、企業等へのPRなどを推進する。 | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|---|---------|---------|---------|--------|-----|
| 成果面 | H26の実績 | ・千代田区との協定による森林整備工事(除伐・枝打ち約11ha)、みどりふれあうフェスティバルへの出展 ・みなと森と水サミット2015、建築・建材展2015に参加 | | | | | |
| | | 指標名 | 単位 | 目標・実績 | H24 | H25 | H26 |
| | 活動指標 | 都市部の自治体・企業等との連携交流イベント実施回数 | 目標値 | 回 | 2 | 3 | 3 |
| | | | 実績値 | 回 | 2 | 2 | 5 |
| | | | 算出根拠等 | 達成率(%) | 100 | 67 | 167 |
| | 活動指標 | みなとモデル二酸化炭素固定認証制度の登録事業者件数 | 目標値 | 回 | 15 | 20 | 20 |
| | | | 実績値 | 回 | 11 | 12 | 14 |
| | | | 算出根拠等 | 達成率(%) | 73 | 60 | 70 |
| | 成果指標 | 都市部とのカーボンオフセット事業による二酸化炭素吸収量 | 目標値 | t-CO2 | 78 | 78 | 78 |
| | | | 実績値 | t-CO2 | 90 | 128 | 130 |
| | | | 算出根拠等 | 達成率(%) | 115 | 164 | 167 |
| | 成果指標 | みなとモデル二酸化炭素固定認証制度による港区内建築物への木材供給事業者数 | 目標値 | 件 | 1 | 2 | 2 |
| | | | 実績値 | 件 | 1 | 1 | 2 |
| | | | 算出根拠等 | 達成率(%) | 100 | 50 | 100 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | 目標値 | | | | |
| 実績値 | | | | | | | |
| 算出根拠等 | | | 達成率(%) | | | | |
| 補足事項 | | | | | | | |
| コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | | |
| | 歳出(千円) | | (A) | 5,605 | 5,276 | 3,967 | |
| | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | 770 | 1,014 | | |
| | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | | | 2,697 | | |
| | 一般財源 | | | 4,835 | 1,565 | 3,967 | |
| コスト指標 | 受益者1件当たり(円) | | (A/B) | 60 | 57 | 43 | |
| | 受益者 | | (B) | 92,861 | 92,097 | 91,605 | |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|--|-------------------------------------|----|--|
| ① 市民ニーズの確認 | ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | B | ・森づくりを通じた都市部との連携・交流は、森林資源の保全や木材流通の活性化、地域振興の両面からニーズがある。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | ・現在は市が主体となっており都市部との交流・連携を行っているが、事業の有効性を浸透するためにも、住民や事業者同士が主体となった交流も必要である。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあげられている | B | ・千代田区とカーボンオフセットによる森林整備を実施することで、高山市内の森林整備が図られるとともに、二酸化炭素吸収量の増加につながっているが、交流・連携の面でさらなる取り組みが必要である。 ・地元産材の活用促進を図る「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」への地元事業者の登録が増加し、木材供給量も増加している。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない | B | ・カーボンオフセット事業により、市有林の間伐経費の節減が図られているが、新たな連携先や連携内容の拡大などの検討余地はある。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | ・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があった | A | ・都市部の自治体、住民、事業所との連携のきっかけづくりとなった。 ・森林等の自然環境を守り活用することによって、CO2吸収量の拡大につながった。 ・各種イベント・行事に参加することにより観光面や地域活性化が広がっている。 |
| | | B (1) ある程度効果があった | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |

| | | | | |
|----|--------|---|--------|------|
| 合計 | 6 / 10 | → | 100点換算 | 60 点 |
|----|--------|---|--------|------|

| | |
|-------------------------------------|--|
| 分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入) | ・CO2削減に向けた都市部の自治体・企業等との継続的な取り組みを進めるほか、新たな枠組みや交流・連携の拡大についての検討が必要である。 ・都市部と地元の住民や事業者同士が自主的に連携活動ができる体制づくりが必要である。 |
|-------------------------------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| (参考) H26事業評価結果(二次評価) | ・引き続きCO2排出量取引など後の財源確保に繋がるような取り組みを行う必要がある。 ・「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」については港区内建築物への木材供給の実績を上げられるよう取り組みが必要がある。 |
|----------------------|--|

4 今後の方向性(Action)

| | |
|------------------|--|
| 課題等に対する27年度の対応状況 | ・カーボンオフセット事業による地球温暖化対策を推進するとともに、都市部の自治体、企業等の各種イベント・行事に参加し、連携・交流のきっかけづくりを行う。 ・高山産の木材流通の促進が図られるように積極的なPRや関係機関への働きかけを行う。 |
|------------------|--|

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|---|----|--|----|--|-------|--|-------|--|---------|
| 次年度の実施方針(担当課評価) | 維持・改善 | ○ | 拡大 | | 縮小 | | 廃止の検討 | | H26完了 | | H27完了予定 |
| | ・森林のCO2吸収量の拡大を図るため、千代田区との連携強化とみなとモデルの推進を図るとともに、相互交流をすすめる。 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|---|----|--|----|--|-------|--|-------|--|---------|
| 二次評価(企画課・総務課・財政課評価) | 維持・改善 | ○ | 拡大 | | 縮小 | | 廃止の検討 | | H26完了 | | H27完了予定 |
| | ・引き続きCO2排出量取引など後の財源確保に繋がるような取り組みを行う必要がある。 ・「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」については港区内建築物への木材供給の拡大につなげられるよう取り組みが必要がある。 | | | | | | | | | | |

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|--------------------------------|----------------|-------|------|---------------|----|------------------|
| 事業名 | 21810 | 木質バイオマス活用促進事業費 | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | 総合計画 | 政策 | 3 | 「すみよさ」のあるまちをめざして |
| | 款 | 2 | 総務費 | | 分野 | 6 | 環境・衛生 |
| | 項 | 1 | 総務管理費 | | 基本施策 | 1 | 快適に暮らせる環境を整備する |
| | 目 | 18 | 環境政策費 | | 施策 | 2 | 地球環境への負荷の低減 |
| 根拠計画 | 高山市地球温暖化対策地域推進計画、高山市新エネルギービジョン | | | | | | |
| 実施計画事業 | 木質バイオマス活用促進事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|-------------------|---|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| | どういった状態にしたいのか(意図) | ・木質バイオマス普及のため、市民の環境意識の高揚を図るとともに、ペレットストーブ等の導入について積極的に支援することによって、日本一の森林都市・飛騨高山に相応しい低炭素型社会を構築する。 | | |
| 概要 | 事業の実施手法(手段) | ・ペレットストーブ、薪ストーブ、ペレット・薪・木屑焚き(チップ)ボイラー、ペレット燃料の購入経費に対して補助を行う。 | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|---------------------------------------|---------|---------|---------|--------|-------|
| 成果面 | H26の実績 | ペレットストーブ等の設置に対する補助、ペレット燃料の購入に対する補助の実施 | | | | | |
| | 指標名 | | 単位 | 目標・実績 | H24 | H25 | H26 |
| | 活動指標 | ペレットストーブ等導入台数 | 台 | 目標値 | 105 | 105 | 250 |
| | | | | 実績値 | 82 | 92 | 78 |
| | 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 78 | 88 | 31 |
| | 活動指標 | ペレット燃料購入助成件数 | 件 | 目標値 | 160 | 96 | 161 |
| | | | | 実績値 | 73 | 64 | 72 |
| | 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 46 | 67 | 45 |
| | 成果指標 | CO2削減量 | t | 目標値 | 130.2 | 131.4 | 317.0 |
| | | | | 実績値 | 101.6 | 115.0 | 100.0 |
| | 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 78 | 88 | 32 |
| | 活動指標 | ペレットボイラー導入台数 | 台 | 目標値 | 1 | 1 | 2 |
| | | | | 実績値 | 0 | 0 | 1 |
| | 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 0 | 0 | 50 |
| | 算出根拠等 | | | 目標値 | | | |
| 算出根拠等 | | | 実績値 | | | | |
| 算出根拠等 | | | 達成率(%) | | | | |
| 補足事項 | | | | | | | |
| コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | | |
| | 歳出(千円) | | (A) | 8,176 | 9,001 | 7,967 | |
| | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | | | | |
| | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | | | | | |
| | 一般財源 | | | 8,176 | 9,001 | 7,967 | |
| コスト指標 | 受益者1件当たり円(A/B) | | | 88 | 98 | 87 | |
| | 受益者 全市民(B) | | | 92,861 | 92,097 | 91,605 | |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|---|-------------------------------------|----|--|
| ① 市民ニーズの確認 | ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | B | ・ストーブ等設置の申請件数は横ばいで、毎年一定の需要は見込まれる。 ・ボイラーに関する問い合わせがわずかではあるが増加している。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | ・木質バイオマス活用の促進は、循環型社会の構築や地球温暖化の防止につながるから市が補助という形で導入促進を行うことは必要であるが、コスト削減や需給システムの確立など事業者側での改善余地がある。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあがっている | B | ・成果指標の目標値は達成できていないが、CO2削減効果としては化石燃料使用からの転換であり、二酸化炭素の削減などについて一定の効果があがっている。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない | B | ・国、県の補助事業活用等、市の財政負担軽減を検討する余地がある。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | ・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があつた | B | ・木質バイオマスの活用促進は、循環型社会の構築と森林環境の保全、地球温暖化の防止に向けた取り組みとして、環境による産業振興やNPO団体の活動等の活性化につながっている。 |
| | | B (1) ある程度効果があつた | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |

| | | | | |
|----|--------|---|--------|------|
| 合計 | 5 / 10 | → | 100点換算 | 50 点 |
|----|--------|---|--------|------|

| | |
|--|--|
| 分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入) | ・ペレットストーブ等の設置に対する補助件数は、ほぼ横ばいで推移しているため、増加に向けた取り組みを図る必要がある。 ・市民及び事業者への周知を効果的に行い、本事業の活用促進を図る必要がある。 |
|--|--|

| | |
|----------------------|--|
| (参考) H26事業評価結果(二次評価) | ・地球温暖化対策における木質バイオマスの有効性について、市民の理解を深める取り組みを行う必要がある。 |
|----------------------|--|

4 今後の方向性(Action)

| | |
|------------------|---|
| 課題等に対する27年度の対応状況 | ・木質バイオマスの利用に関するメリットや必要性などについて周知を行うとともに利用者の意見を制度活用の推進につなげる。 ・公共施設における木質バイオマスの導入を検討する。 |
|------------------|---|

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|---|----|--|----|--|-------|--|-------|--|---------|
| 次年度の実施方針(担当課評価) | 維持・改善 | ○ | 拡大 | | 縮小 | | 廃止の検討 | | H26完了 | | H27完了予定 |
| | ・申請件数はほぼ横ばいであるが、CO2排出量の削減、木質バイオマスの活用による循環型社会の構築と地球温暖化の防止に大きな効果が期待できるため、引き続き実施する。 ・木質バイオマスの利用を促進するための制度の周知や利用者意見の把握を行うとともに、他の事業と併せて木質バイオマスの利用を促進する。 ・公共施設における木質バイオマスの導入をすすめる。 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------|------------|---|----|--|----|--|-------|--|-------|--|---------|
| 二次評価(企画課・総務課・財政課評価) | 維持・改善 | ○ | 拡大 | | 縮小 | | 廃止の検討 | | H26完了 | | H27完了予定 |
| | (担当課評価に同じ) | | | | | | | | | | |

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|----------|------------------|-------|------|---------------|----|------------------|
| 事業名 | 21821 | 住宅エコ推進事業費 | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | 総合計画 | 政策 | 3 | 「すみよさ」のあるまちをめざして |
| | 款 | 2 | 総務費 | | 分野 | 6 | 環境・衛生 |
| | 項 | 1 | 総務管理費 | | 基本施策 | 1 | 快適に暮らせる環境を整備する |
| | 目 | 18 | 環境政策費 | | 施策 | 2 | 地球環境への負荷の低減 |
| | 根拠計画 | 高山市地球温暖化対策地域推進計画 | | | | | |
| 実施計画事業 | 住宅エコ推進事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|-------------------|---|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| | どういった状態にしたいのか(意図) | ・高山市におけるエコ住宅の新築工事及びエコリフォーム工事を促進し、住宅性能を維持・向上させ家庭部門におけるCO2の排出削減を促進し、地球温暖化対策の推進を図る | | |
| 概要 | 事業の実施手法(手段) | ・補助対象となるエコ住宅の新築、エコリフォーム工事、屋根遮熱塗装等工事に対して、要した費用の1/3を補助する。(限度額45万円) | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|---------------------------|---------|---------|---------|---------|-----|
| 成果面 | H26の実績 | ・エコ住宅の新築、エコリフォームに対する補助の実施 | | | | | |
| | 指標名 | | 単位 | 目標・実績 | H24 | H25 | H26 |
| | 活動指標 | 住宅エコ助成件数 | 件 | 目標値 | 2,100 | 1,320 | 540 |
| | | | | 実績値 | 1,559 | 1,665 | 394 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 達成率(%) | 74 | 126 | 73 |
| | | | | 目標値 | 294 | 185 | 75 |
| | 成果指標 | CO2削減量 | t | 実績値 | 218 | 233 | 55 |
| | | | | 達成率(%) | 74 | 126 | 73 |
| | 成果指標 | 補助対象となった工事の総工事費 | 億円 | 目標値 | 34 | 21 | 8 |
| | | | | 実績値 | 38 | 57 | 21 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 達成率(%) | 112 | 271 | 263 |
| | | | | 目標値 | | | |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 実績値 | | | |
| | | | | 達成率(%) | | | |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 目標値 | | | |
| 実績値 | | | | | | | |
| 成果指標 | 算出根拠等 | | 達成率(%) | | | | |
| | | | 目標値 | | | | |
| 成果指標 | 算出根拠等 | | 実績値 | | | | |
| | | | 達成率(%) | | | | |
| 補足事項 | | | | | | | |
| コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | | |
| | 歳出(千円) | | (A) | 294,268 | 366,429 | 110,687 | |
| | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | | | | |
| | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | | | | | |
| | 一般財源 | | | 294,268 | 366,429 | 110,687 | |
| コスト指標 | 受益者1件当たり(円) | | (A/B) | 3,169 | 3,979 | 1,208 | |
| | 受益者 | | (B) | 92,861 | 92,097 | 91,605 | |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|---|-------------------------------------|----|--|
| ① 市民ニーズの確認 | ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | B | ・申請件数はある程度の高い水準で推移している。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | ・市内における家庭部門の二酸化炭素排出量の削減につながるもの、当事業を実施することによる二酸化炭素排出量の削減効果は低く、費用対効果が低いため見直しが必要。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあがっている | B | ・市内における家庭部門の省エネルギー化による二酸化炭素排出量の削減や、市内における経済効果の面で一定の成果があがっている。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない | C | ・市内における家庭部門の二酸化炭素排出量の削減につながるもの、当事業を実施することによる二酸化炭素排出量の削減効果は低く、費用対効果が低いため見直しが必要。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | ・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があった | B | ・市内における住宅の省エネルギー化の動機づけとしては、一定の効果があった。 |
| | | B (1) ある程度効果があった | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |

| | | | | |
|----|--------|---|--------|------|
| 合計 | 4 / 10 | → | 100点換算 | 40 点 |
|----|--------|---|--------|------|

| | |
|---------------------------------------|---|
| 分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入) | ・平成24年10月より開始した高山市独自の補助制度により、国のエコポイント制度実施時と同等の着工件数が維持できている。 ・当事業を実施することによるCO2削減効果は低く、費用対効果が低いため平成25年度着工分までで終了。 |
|---------------------------------------|---|

| | |
|----------------------|--|
| (参考) H26事業評価結果(二次評価) | |
|----------------------|--|

4 今後の方向性(Action)

| | |
|------------------|-------------------------------|
| 課題等に対する27年度の対応状況 | ・当該事業は平成26年度(平成25年度着工分)までで終了。 |
|------------------|-------------------------------|

| | | | | | | | |
|-----------------|-------|----|----|-------|-----------------------|-------|---------|
| 次年度の実施方針(担当課評価) | 維持・改善 | 拡大 | 縮小 | 廃止の検討 | <input type="radio"/> | H26完了 | H27完了予定 |
| | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------|-------|----|----|-------|-----------------------|-------|---------|
| 二次評価(企画課・総務課・財政課評価) | 維持・改善 | 拡大 | 縮小 | 廃止の検討 | <input type="radio"/> | H26完了 | H27完了予定 |
| | | | | | | | |

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|--------------------------------|------------|-------|--|------|---------------|------------------|
| 事業名 | 21825 | 地球温暖化対策事業費 | | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 |
| 種別 | | | | | | | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | | 政策 | 3 | 「すみよさ」のあるまちをめざして |
| | 款 | 2 | 総務費 | | 分野 | 6 | 環境・衛生 |
| | 項 | 1 | 総務管理費 | | 基本施策 | 1 | 快適に暮らせる環境を整備する |
| | 目 | 18 | 環境政策費 | | 施策 | 2 | 地球環境への負荷の低減 |
| 根拠計画 | 高山市地球温暖化対策地域推進計画、高山市新エネルギービジョン | | | | | | |
| 実施計画事業 | 地球温暖化対策推進事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|------------------|--|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| | どういう状態にしたいのか(意図) | ・温室効果ガス排出量を削減する手段や仕組みを導入し、低炭素社会を構築する。(※1990年度比で2020年度までに温室効果ガス排出量25%削減を目指す。) | | |
| 概要 | 事業の実手法(手段) | ・太陽光発電システム設置に対する助成制度により普及促進を図る。 ・施設緑化用樹木を購入し、公共施設の緑化を図る。 ・防災拠点施設(指定避難所)に太陽光発電と蓄電池を整備し、新エネルギーの導入と防災力の強化を図る。 | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|--|---------|----------------------|---------|---------|-------|
| 成果面 | H26の実績 | <ul style="list-style-type: none"> 電気自動車用急速充電器の設置 2基 防災拠点施設整備事業の実施(10施設設置、5施設設計) 施設緑化用樹木の購入 太陽光発電システム設置に対する助成制度の実施 | | | | | |
| | | 指標名 | 単位 | 目標・実績 | H24 | H25 | H26 |
| | 活動指標 | 施設緑化用樹木配付本数 | 本 | 目標値 | 2,500 | 3,000 | 2,500 |
| | | | | 実績値 | 2,245 | 2,495 | 1,498 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 達成率(%) | 90 | 83 | 60 |
| | | | | 住宅用太陽光発電システムの市内導入世帯数 | 世帯 | 目標値 | 550 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 実績値 | 581 | 調査中 | 調査中 |
| | | | | 達成率(%) | 106 | | |
| | 成果指標 | 温室効果ガス排出量の削減率 | % | 目標値 | 25.0 | 25.0 | 25.0 |
| | | | | 実績値 | 21.3 | 調査中 | 調査中 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 達成率(%) | 85 | | |
| | | | | 小中学校等環境学習参加者数 | 人 | 目標値 | 50 |
| | 成果指標 | 算出根拠等 | | 実績値 | 21 | 17 | 5 |
| | | | | 達成率(%) | 42 | 34 | 10 |
| | 成果指標 | 電気自動車用急速充電器利用台数 | 台 | 目標値 | 365 | 730 | 1,460 |
| 実績値 | | | | 329 | 985 | 2,161 | |
| 成果指標 | 算出根拠等 | | 達成率(%) | 90 | 135 | 148 | |
| | | | | | 目標値 | | |
| | | | 実績値 | | | | |
| | | | 達成率(%) | | | | |
| 補足事項 | | | | | | | |
| コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | | |
| | 歳出(千円) | | (A) | 24,095 | 38,106 | 329,753 | |
| | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | | 165 | | |
| | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | | | 6,350 | 189,839 | |
| | 一般財源 | | | 24,095 | 31,591 | 139,914 | |
| コスト指標 | 受益者1件当たり(円) | (A/B) | 259 | 414 | 3,600 | | |
| | 受益者 | (B) | 92,861 | 92,097 | 91,605 | | |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|---|-------------------------------------|----|---|
| ① 市民ニーズの確認 | ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | B | ・地球温暖化対策、再生可能エネルギーなどの環境問題は市民生活に密着した問題であり、市民、事業者の意識も高く、ニーズは増加している。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | ・市内の大規模事業者として、また市民や事業者をけん引する環境リーダーであり、市が主体となって実施する必要があるが、市民や事業者などと連携し各主体が協働して取り組むことで、より大きな効果が期待できる。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあがっている | A | ・高山市地球温暖化対策地域推進計画に基づき、各施策を実施し、2020年度までに1990年度比で温室効果ガス排出量を25%削減の目標値に向けて取り組んでおり、目標値の8割まで達成し、予定以上に削減されている。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない | B | ・電気自動車急速充電器の設置及び防災拠点施設への新エネルギー導入については、国等の補助金を活用し、市の財政負担を軽減した。 ・新エネルギー設備などの導入による燃料費等の削減について検討する必要がある。 ・ESCO事業の活用によるコスト削減の検討の余地がある。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | ・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があつた | A | ・防災拠点施設(指定避難所)への太陽光発電設備の導入は、再生可能エネルギーの活用や公共施設の安全安心の確保、温室効果ガス排出量の削減といった面で大きな成果があつた。 |
| | | B (1) ある程度効果があつた | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |

| | | | | |
|----|--------|---|--------|------|
| 合計 | 7 / 10 | → | 100点換算 | 70 点 |
|----|--------|---|--------|------|

| | |
|---------------------------------------|---|
| 分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入) | ・温室効果ガス排出量の削減や再生可能エネルギーの導入促進を図るため、地域特性に合った再生可能エネルギーの導入をすすめる必要がある。 ・市民、事業者の新エネ、省エネに対する意識喚起と導入に向けた機運を高める必要がある。 |
|---------------------------------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| (参考) H26事業評価結果(二次評価) | ・新エネルギーの導入にあつたは、地域活性化や新産業創出の視点を組み入れるとともに、国のエネルギー政策の見直しの動向に留意する必要がある。 ・CO2排出量がどの程度削減されたのか、事業の効果検証を行う必要がある。 ・公共施設への新エネルギー導入に際しては、民間事業者への「屋根貸し」も含め、効率的な手法を検討する必要がある。 |
|----------------------|---|

4 今後の方向性(Action)

| | |
|-------------------|--|
| 課題等に対する27年度への対応状況 | ・防災拠点施設(指定避難所)に再生可能エネルギー設備等を導入し、防災力の強化と環境負荷の小さい低炭素型の地域づくりを推進する。 ・市民参加による新エネルギーの導入を促進するため、公共施設を活用した市民協働発電所制度の導入を図る。 ・地域における新エネルギー導入に対する支援策の検討を行う。 ・電気自動車用急速充電器を設置し、次世代自動車の導入を促進させ、一層のCO2削減を図る。 |
|-------------------|--|

| | | | | | | |
|-----------------|---|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 次年度の実施方針(担当課評価) | <input type="radio"/> 維持・改善 | <input type="radio"/> 拡大 | <input type="radio"/> 縮小 | <input type="radio"/> 廃止の検討 | <input type="checkbox"/> H26完了 | <input type="checkbox"/> H27完了予定 |
| | ・防災拠点施設(指定避難所)への新エネルギーの導入や電気自動車用急速充電器の設置などといった事業は終了となるが、当該設備の稼働状況などをふまえ、今後の施策に向けた検証と新たな施策の検討を行う。 ・市民や事業者との連携による新エネルギーの導入や二酸化炭素排出量削減の取り組みを推進する。 | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------------|--|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 二次評価(企画課・総務課・財政課評価) | <input type="radio"/> 維持・改善 | <input type="radio"/> 拡大 | <input type="radio"/> 縮小 | <input type="radio"/> 廃止の検討 | <input type="checkbox"/> H26完了 | <input type="checkbox"/> H27完了予定 |
| | ・新エネルギーの導入にあつたは、地域活性化や新産業創出の視点を組み入れるとともに、国のエネルギー政策の見直しの動向に留意する必要がある。 ・CO2排出量がどの程度削減されたのか、事業の効果検証を行う必要がある。 | | | | | |

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|--------------------------------------|--------------|-------|------|---------------|----|------------------|
| 事業名 | 21850 | 生物多様性保全推進事業費 | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | 総合計画 | 政策 | 3 | 「すみよさ」のあるまちをめざして |
| | 款 | 2 | 総務費 | | 分野 | 6 | 環境・衛生 |
| | 項 | 1 | 総務管理費 | | 基本施策 | 1 | 快適に暮らせる環境を整備する |
| | 目 | 18 | 環境政策費 | | 施策 | 2 | 地球環境への負荷の低減 |
| 根拠計画 | 高山市地球温暖化対策地域推進計画、高山市新エネルギービジョン | | | | | | |
| 実施計画事業 | 自然保護保存活動推進事業・自然案内人育成活用事業・生物多様性保全推進事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|-------------------|--|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| | どういった状態にしたいのか(意図) | 市民が生物多様性への関心と理解を深めることで、自然環境の保全につなげる。 | | |
| 概要 | 事業の実手法(手段) | <ul style="list-style-type: none"> その土地本来の木による本物の森をつくることを通じていのちの森さ学を学ぶ「いのちの森づくり」を実施する。 学校による授業の一環として専門のインストラクターの説明を受けながら、五色ヶ原の森をはじめとする自然公園等に入り、自然を体感する「生物多様性等自然環境学習」を実施する。 里山をフィールドとして、草木や野鳥、昆虫等と触れ親しむ「山の自然学校」を開催する。 特定外来生物の駆除や外来生物法の啓発並びに駆除方法の講習会を開催する。 | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | | |
|--------|-------------|--|--------|---------|---------|---------|-----|
| 成果面 | H26の実績 | <ul style="list-style-type: none"> いのちの森づくりの開催 自然環境学習の開催 山の自然学校の開催 外来生物駆除講習会の実施、奨励金制度の実施 | | | | | |
| | 指標名 | | | | | | |
| | 活動指標 | いのちの森づくり開催数 | 回 | 目標値 | H24 | H25 | H26 |
| | 算出根拠等 | | | 実績値 | 15 | 15 | 5 |
| | 活動指標 | 山の自然学校の開催数 | 回 | 目標値 | 6 | 6 | 6 |
| | 算出根拠等 | | | 実績値 | 4 | 6 | 6 |
| | 成果指標 | いのちの森づくりへの参加者数 | 回 | 目標値 | 310 | 310 | 310 |
| | 算出根拠等 | | | 実績値 | 800 | 280 | 127 |
| | 成果指標 | 自然環境学習への参加校数 | 校 | 目標値 | 32 | 32 | 32 |
| | 算出根拠等 | | | 実績値 | 20 | 13 | 19 |
| | 成果指標 | 山の自然学校への参加者数 | 人 | 目標値 | 120 | 120 | 120 |
| | 算出根拠等 | | | 実績値 | 100 | 202 | 129 |
| | 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 83 | 168 | 108 |
| | 補足事項 | | | | | | |
| | コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | |
| 歳出(千円) | | (A) | 4,025 | 7,250 | 7,998 | | |
| 財源内訳 | | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | | | |
| | | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | 800 | 3,550 | 3,134 | |
| コスト指標 | | 一般財源 | | 3,225 | 3,700 | 4,864 | |
| | 受益者1件当たり(円) | (A/B) | 43 | 79 | 87 | | |
| | 受益者 | (B) | 92,861 | 92,097 | 91,605 | | |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|--|-------------------------------------|----|--|
| ① 市民ニーズの確認 | 事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | B | 山の自然学校や自然環境学習などの事業について、市内小中学校や市民の参加希望は多く市民ニーズは高いが、行事の参加人数は伸び悩んでおり、更なる周知を図るとともに市民の主体的な取り組みにつなげる必要がある。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | 市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | 自然環境学習は、子供たちに生物多様性や自然環境に対する理解を深めてもらい、子供の頃から環境保全や自然保護意識を養うため、市が事業主体となって今後も実施する必要がある。 いのちの森づくりや山の自然学校は、団体等の類似する自然環境学習活動と連携した取り組みへの見直しが必要である。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | 目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあげられている | B | 自然環境学習については参加学校数が回復し成果があった。事前学習及び事後学習に取り組む学校が増加する等の効果があがっている。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | 最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない | A | 職員による準備作業の実施や原料調達、ボランティアによる協力等により最小限のコストで運営されている。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があつた | A | 乗鞍山麓五色ヶ原の森を利用した自然環境学習を市内小中学校が積極的に利用している。 特定外来植物講習会や奨励金制度の実施により、民間団体や町内会の活動促進につながっている。 障がい者就労施設との連携による苗の管理を行うことにより、いのちの森づくりへの参加者拡大の効果があがっている。 |
| | | B (1) ある程度効果があつた | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |

| | | | | |
|----|--------|---|--------|------|
| 合計 | 7 / 10 | → | 100点換算 | 70 点 |
|----|--------|---|--------|------|

分析・評価で明らかになった課題 (FA) 評価にするために何が必要なかを記入)

- 受益者負担を設けない事業であるため、国等の補助金の活用や民間団体等との連携を検討し、市の負担を軽減することが必要。
- 民間団体等の類似する自然環境学習活動と連携した取り組みが必要。
- 自然環境学習については、事前事後学習の実施を呼びかけることでより学習効果を高める取り組みが必要。
- いのちの森づくりでは、場所の確保が必要であり、民間の協力体制を検討する必要がある。
- 特定外来生物の駆除については、町内や各種団体の自主的な取り組みを促進する必要がある。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

- 次年度以降も教育委員会及び民間団体等との連携を密にとり、積極的に環境教育活動を進めていく。
- 国、県等の補助金の活用や民間団体等との連携を推進し、市の財政的・労力的負担を軽減していく。
- 外来生物駆除への更なる啓発活動と駆除講習会の開催などによる市民の参画を働きかけていく。
- 奨励金制度について市民の意見を聞きながら制度の検証を行う。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

- 自然環境教育の実施にあたっては、民間で実施している活動と連携する等、効率的な環境教育の実施を図っている。
- 小中学生の自然環境学習については、事前事後の学習実施について学校へ呼びかけを行い、出前講座として実施するなどの取り組みを行っている。
- 特定外来生物の駆除については、講習会を実施するとともに、町内や各種団体の自主的な活動が広がるような取り組みに努めている。
- いのちの森づくりについては、民間への協力を依頼している。

| | | | | | | |
|-------------------------|--|------|------|---------|---------|-----------|
| 次年度の 実施方針 (担当課評価) | ○ 維持・改善 | ○ 拡大 | ○ 縮小 | ○ 廃止の検討 | ○ H26完了 | ○ H27完了予定 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も教育委員会及び民間団体等との連携を密にとり、積極的に環境教育活動を進めていく。 国、県等の補助金の活用や民間団体等との連携を推進する。 外来生物駆除への更なる啓発活動と駆除講習会の開催などによる市民の参画を働きかけていく。 いのちの森づくりの場所の確保や実施方法及び民間の協力体制の検討をすすめるとともに市外への発信に努める。 | | | | | |

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)

- 各種行事については、参加人数が伸び悩んでいる要因を分析するとともに、他の団体等が行っている自然環境学習活動との連携を視野に入れながら取り組む必要がある。

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------------|-------|------|---------------|----|------------------|
| 事業名 | 62410 | 自然公園等管理事業費 | | 担当課 | 環境政策部 環境政策推進課 | 内線 | 2282 |
| 予算 | 会計 | 1 | 一般会計 | 総合計画 | 政策 | 3 | 「すみよさ」のあるまちをめざして |
| | 款 | 6 | 商工費 | | 分野 | 6 | 環境・衛生 |
| | 項 | 2 | 観光費 | | 基本施策 | 1 | 快適に暮らせる環境を整備する |
| | 目 | 3 | 自然公園費 | | 施策 | 2 | 地球環境への負荷の低減 |
| 根拠計画 | 高山市環境基本計画 | | | | | | |
| 実施計画事業 | 登山道整備事業 | | | | | | |

1 事業の目的・概要(Plan)

| | | | | |
|----|------------------|--|------|----------|
| 目的 | 誰を(対象) | 全市民 | 対象者数 | 90,938 人 |
| 目的 | どういう状態にしたいのか(意図) | ・適正な自然公園の管理を推進し、市民や観光客等が自然公園へ安全安心に訪れられる環境を整えることで、公園利用の促進と自然環境保護への意識の高揚を図る。 | | |
| 概要 | 事業の実手法(手段) | ・指定管理者による乗鞍山麓五色ヶ原の森の適正な管理運営を推進 ・乗鞍自動車利用適正化協議会による乗鞍スカイラインの適正活用の推進 | | |

2 事業の推移・結果(Do)

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|--|---------|---------|---------|---------|---------|
| 成果面 | H26の実績 | ・乗鞍山麓五色ヶ原の森の適正管理 ・乗鞍スカイラインの適正管理と乗鞍フォーラム開催による乗鞍岳の環境保全啓発の推進 | | | | | |
| | 指標名 | | 単位 | 目標・実績 | H24 | H25 | H26 |
| | 活動指標 | 乗鞍山麓五色ヶ原の森県民ツアー開催回数 | 回 | 目標値 | 10 | 10 | 10 |
| | | | | 実績値 | 10 | 8 | 10 |
| | 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 100 | 80 | 100 |
| | | | | 目標値 | 7,500 | 7,500 | 7,500 |
| | 成果指標 | 乗鞍山麓五色ヶ原の森の入込者数 | 人 | 実績値 | 5,481 | 4,953 | 3,602 |
| | | | | 達成率(%) | 73 | 66 | 48 |
| | 算出根拠等 | | | 目標値 | 500 | 500 | 500 |
| | | | | 実績値 | 500 | 354 | 182 |
| | 成果指標 | 乗鞍山麓五色ヶ原の森県民ツアー参加者数 | 人 | 達成率(%) | 100 | 71 | 36 |
| | | | | 目標値 | 200,000 | 200,000 | 200,000 |
| | 算出根拠等 | | | 実績値 | 164,946 | 166,774 | 126,516 |
| | | | | 達成率(%) | 82 | 83 | 63 |
| | 成果指標 | 乗鞍スカイラインの入込者数 | 人 | 目標値 | 500 | 500 | 500 |
| 実績値 | | | | 250 | 250 | 100 | |
| 算出根拠等 | | | 達成率(%) | 50 | 50 | 20 | |
| | | | 目標値 | | | | |
| 算出根拠等 | | | 実績値 | | | | |
| | | | 達成率(%) | | | | |
| 補足事項 | | | | | | | |
| コスト面 | 事業費(人件費を除き繰越・補正を含む) | | H24 決算額 | H25 決算額 | H26 決算額 | | |
| | 歳出(千円) | | (A) | 46,039 | 48,175 | 50,054 | |
| | 受益者負担(使用料・負担金等) | | | | | | |
| | その他特定財源(国・県支出金・起債等) | | | 2,012 | 2,544 | 1,845 | |
| | 一般財源 | | | 44,027 | 45,631 | 48,209 | |
| コスト指標 | 受益者1件当たり(円) | (A/B) | 496 | 523 | 546 | | |
| コスト指標 | 受益者 | 全市民 | (B) | 92,861 | 92,097 | 91,605 | |

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

| 評価項目 | 評価観点 | 評価基準 | 評価 | 評価内容の説明(評価の理由等) |
|-------------|--|-------------------------------------|----|---|
| ① 市民ニーズの確認 | ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか | A (2) ニーズが高い | B | ・飛騨管内において新たなレイルツアーが開始するなど、自然公園等での登山ニーズは増加している。 |
| | | B (1) ある程度のニーズがある | | |
| | | C (0) ニーズが低い | | |
| ② 市が実施する必要性 | ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか | A (2) 事業主体を見直す余地はない | B | ・自然公園は市民の財産であるが、自然環境と地域振興のバランスに配慮した保護や活用方法を進める必要があり、市が主体的に取り組む必要がある。 ・また、国や県等の管理者との連携により、保護や活用を進めていく必要がある。 |
| | | B (1) 一部見直しが必要である | | |
| | | C (0) 市が実施する必要性が低い | | |
| ③ 活動内容の有効性 | ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか | A (2) 目的とする成果が十分にあがっている | B | ・乗鞍山麓五色ヶ原の森は入山者へのアンケート結果では9割以上の方が良好以上と回答しており、環境に配慮した誘客としての成果があがっているが、入山者数は減少傾向である。 ・乗鞍スカイラインは、環境と地域振興のバランスについての検討が必要である。 |
| | | B (1) 目的とする成果がある程度あがっている | | |
| | | C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ④ 執行方法の効率性 | ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か | A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない | B | ・乗鞍スカイラインの管理運営に関して、市の負担が大きくなっており、受益者負担の見直しや県負担増への要望が必要である。 ・自然公園内の登山道等の整備に関し、国等の補助を活用する必要がある。国、県に働きかけを行う必要がある。 |
| | | B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている | | |
| | | C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である | | |
| ⑤ 政策面における効果 | ・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか | A (2) 効果があった | B | ・乗鞍山麓五色ヶ原の森については、自然環境に配慮する取り組みを実施し、指定管理者による管理運営が行われているが、気象条件等の影響から入山者数は減少したものの、自然環境と地域振興の両立を図る取り組みは、国内でも高く評価されている。 |
| | | B (1) ある程度効果があった | | |
| | | C (0) あまり効果が見られなかった | | |

| | | | | |
|----|--------|---|--------|------|
| 合計 | 5 / 10 | → | 100点換算 | 50 点 |
|----|--------|---|--------|------|

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・自然環境保全と地域振興のバランスを考慮した事業を推進する必要がある。
・乗鞍については、国、県に対する管理財源確保への働きかけや関係団体等との連携強化を推進し、市の財政的負担の軽減を図る必要がある。
・気象条件等の影響から乗鞍スカイラインや乗鞍山麓五色ヶ原の森の利用者は減少傾向であり、自然に配慮した取り組みは継続しながらも、利用者増加に向けた取り組みを図る必要がある。
・市民を始め全国からの観光客が安全で快適な登山を楽しむために山岳トイレの設置等登山者の利便性の向上を図る。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

・乗鞍山麓五色ヶ原の森については、引き続き環境休養日を設け、自然環境への負荷に配慮した誘客への展開を図るとともに、五色ヶ原の森自然保護審議会の意見を生かした取組みを実施する。
・乗鞍については、地域振興と環境保全のバランスを考えながら、乗鞍自動車利用適正化方針に基づき、事業展開するとともに、課題解決に向けて検討を進める。

4 今後の方向性(Action)

乗鞍山麓五色ヶ原の森については、環境休養日を設ける取組みを継続するとともに、案内人のスキルアップを図るため研修内容等も充実し、五色ヶ原の森自然保護審議会の意見をふまえた取組みを実施する。
・また、入山者数が減少傾向であることから、利用者増加に向けた取り組みを行うとともに、新たな歩道整備に向けた調査検討を行う。
・乗鞍については、乗鞍自動車利用適正化方針に基づき、事業展開するとともに、課題解決に向けて適正収容力を調査し、目標入山者数設定に向けて検討を進める。
・山岳トイレの設置にかかる補助制度を施行した。

| | | | | | | |
|-------------------------|---|------|------|---------|-------|---------|
| 次年度の 実施方針 (担当課評価) | ○ 維持・改善 | ○ 拡大 | ○ 縮小 | ○ 廃止の検討 | H26完了 | H27完了予定 |
| | ・乗鞍山麓五色ヶ原の森については、自然環境への配慮を図りながらも入山者増加に向けた取り組みを図る。 ・五色ヶ原の森自然保護審議会の意見をふまえた新たな歩道整備の検討や老朽化した施設の維持管理を行う。 ・乗鞍については、地域振興と環境保全のバランスを考えながら、乗鞍自動車利用適正化方針に基づき、事業展開するとともに、課題解決に向けて検討を進める。 | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------------------|------------|------|------|---------|-------|---------|
| 二次評価 (企画課・総務課・財政課評価) | ○ 維持・改善 | ○ 拡大 | ○ 縮小 | ○ 廃止の検討 | H26完了 | H27完了予定 |
| | (担当課評価に同じ) | | | | | |